金融と日本銀行

名前

問1　不景気の際、日本銀行は景気を刺激するために市場を流通する通貨の量を調整する「公開市場操作」を行います。このとき、日本銀行が一般の金融機関を相手に行う操作として正しいものはどれですか。（2024年 京都府公立入試 類似）

1. 日本銀行が持っている国債を一般の金融機関に売り、市場の通貨量を減らす。
2. 日本銀行が持っている国債を一般の金融機関に売り、市場の通貨量を増やす。
3. 一般の金融機関が持っている国債を買い取り、市場の通貨量を増やす。
4. 一般の金融機関が持っている国債を買い取り、市場の通貨量を減らす。

問2　不景気の際に日本銀行が行う金融政策のうち、一般の銀行から国債などを買い取る「買いオペレーション」の目的と仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2023年 兵庫県公立入試 類似）

1. 銀行が保有する資金量を減らし、市場の通貨流通量を制限することで、物価の上昇を抑える。
2. 銀行が保有する資金量を増やし、貸し出し金利を下げることで、企業への融資を促す。
3. 銀行が保有する資金量を増やし、預金金利を上げることで、個人の貯蓄を促進する。
4. 銀行が保有する資金量を減らし、貸し出し金利を上げることで、過剰な消費を抑える。

問3　日本の中央銀行である日本銀行が、一般の民間銀行に対して資金を貸し出したり、預金を受け入れたりする役割を何と呼びますか。（2017年 長崎県公立入試 類似）

1. 発券銀行
2. 政府の銀行
3. 国民の銀行
4. 銀行の銀行

問4　日本銀行が、景気不振の状況を改善するために行う「買いオペレーション（公開市場操作）」の仕組みについて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 佐賀県公立入試 類似）

1. 日本銀行が所得の高い層に対して税率を上げるよう指示し、その税収を公共事業に充てることで景気を刺激する。
2. 日本銀行が民間金融機関に対し、それぞれの銀行独自の貨幣を発行させて市場の通貨量を増やさせる。
3. 日本銀行が民間金融機関に国債などを売り、市場に出回る通貨量を減らすことで、物価の上昇を抑える。
4. 日本銀行が民間金融機関から国債などを買い取り、市場に出回る通貨量を増やすことで、景気の回復を促す。

問5　近年、クレジットカードや電子マネーなどを利用したキャッシュレス決済が急速に普及している。これらの決済の多くは、銀行口座にある資金を移動させることで行われるが、このように銀行などに預けられ、支払い手段として利用できるお金を経済学上の用語で何というか。（2025年 青森県公立入試 類似）

1. 暗号資産
2. 基軸通貨
3. 預金通貨
4. 現金通貨

問6　日本銀行は、日本の中央銀行として一般の銀行とは異なる3つの大きな役割を持っています。そのうち、民間銀行に対して資金の貸し出しを行ったり、決済のための口座を提供したりする役割を何と呼びますか。（2025年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 発券銀行
2. 銀行の銀行
3. 政府の銀行
4. 日本政策投資銀行

問7　企業の資金調達の仕組みの一つである「直接金融」に関する記述として、最も適切なものはどれですか。（2020年 岡山県公立入試 類似）

1. 企業が株式や債券を発行し、家計などの投資家から直接資金を調達する。
2. 企業が社内の留保金を用いて、新たな設備投資の資金に充てる。
3. 銀行が一般の家庭から集めた預金を、必要とする企業に貸し付ける。
4. 日本銀行が景気調整のために、市中の金融機関に対して資金を供給する。

問8　日本銀行が行う金融政策のうち、不景気への対策として実施される「買いオペレーション」の仕組みについて説明した文として正しいものはどれですか。（2023年 山梨県公立入試 類似）

1. 日本銀行が国債を売り、代金を回収することで、市場の通貨供給量を減らして景気の過熱を抑える。
2. 日本銀行が国債を買い、代金を支払うことで、市場の通貨供給量を増やして景気の回復を図る。
3. 日本銀行が企業から直接製品を買い取ることで、企業の利益を直接的に増やして景気の回復を図る。
4. 日本銀行が金利を強制的に引き上げることで、国民が銀行へ預金する額を増やして景気の安定を図る。

問9　資金の貸し手と借り手の間に金融機関が入る「間接金融」の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 宮崎県公立入試 類似）

1. 投資家が証券会社を通じて特定の企業の株式を購入し、直接的に資金を提供する仕組み。
2. 企業が市場で社債を発行し、不特定多数の個人から直接資金を借り入れる仕組み。
3. 金融機関が資金の貸付先を決定し、貸し倒れなどの運用リスクも金融機関が負う仕組み。
4. 預金者が自らの判断で貸付先の企業を選び、その企業から直接利子を受け取る仕組み。

問10　景気が後退している不景気の際、政府が実施する財政政策と、日本銀行が実施する金融政策の組み合わせとして最も適切な説明はどれですか。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 政府が所得税や消費税の増税を行って消費を抑制し、日本銀行が民間銀行から国債を買い取ることで市場の通貨量を増やす。
2. 政府が公共投資を増やして仕事や需要を創出し、日本銀行が民間銀行から国債を買い取ることで市場の通貨量を増やす。
3. 政府が公共投資を減らして財政支出を抑え、日本銀行が民間銀行に国債を売却することで市場の通貨量を減らす。
4. 政府が公共投資を増やして雇用を安定させ、日本銀行が民間銀行に国債を売却することで金利の上昇を促す。

問11　好況期において、日本銀行が「売りオペレーション」を行う主な目的と、その仕組みを説明した文として正しいものを次から選びなさい。（2020年 島根県公立入試 類似）

1. 市場の通貨量を減らすことで金利を上昇させ、景気の行き過ぎを抑えるため。
2. 市場の通貨量を増やすことで金利を低下させ、企業の投資を促進するため。
3. 日本銀行の保有する国債を減らすことで、政府の財政赤字を解消するため。
4. 通貨の流通を活発にすることで失業率をさらに下げ、国民所得を増やすため。

問12　日本銀行は、一般の銀行とは異なる特殊な役割を担っています。日本銀行が「銀行の銀行」と呼ばれる理由として、業務の実態を正しく述べたものはどれですか。（2019年 茨城県公立入試 類似）

1. 全国の民間銀行の経営権を政府に代わって所有し、銀行の支店網を管理しているから。
2. すべての国民が日本銀行に口座を持ち、民間銀行を介さずに預金ができる仕組みを提供しているから。
3. 銀行の窓口で行われる振り込みや引き出しの業務を、すべて日本銀行が遠隔で代行しているから。
4. 民間金融機関との間で当座預金のやり取りを行い、金融システム全体の資金の過不足を調整しているから。

問13　景気変動に対応する日本銀行の役割についてまとめた資料において、不景気時における「日本銀行」と「国債」の関係について正しく述べているものはどれですか。（2020年 秋田県公立入試 類似）

1. 日本銀行が民間金融機関に国債を売ることで、通貨量を増やす。
2. 日本銀行が民間金融機関から国債を買うことで、通貨量を増やす。
3. 日本銀行が民間金融機関から国債を買うことで、通貨量を減らす。
4. 日本銀行が民間金融機関に国債を売ることで、通貨量を減らす。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 一般の金融機関が持っている国債を買い取り、市場の通貨量を増やす。	不景気のときには、世の中に出回るお金の量を増やして経済を活発にする必要があります。日本銀行が民間の銀行（一般の金融機関）から国債を買い入れることで、その代金として日本銀行から民間の銀行へ資金が渡ります。これにより、銀行が企業や個人に貸し出せるお金が増え、消費や投資が促進されます。
問2	答え 2 銀行が保有する資金量を増やし、貸し出し金利を下げることで、企業への融資を促す。	景気が停滞しているとき、日本銀行は市場に流通するお金の量を増やすために「買いオペレーション」を行います。日本銀行が民間の銀行から国債などを買い取ることで、銀行側が自由に使える資金が増えます。その結果、銀行は企業などへお金を貸し出しやすくなり、金利が低下することで経済活動を刺激する効果があります。
問3	答え 4 銀行の銀行	日本銀行は、私たち個人や一般の企業と直接取引を行うことはありません。その代わりに、三菱UFJ銀行や地方銀行といった「一般の銀行」を相手に資金の貸し借りや預金の管理を行うため、このような名称で呼ばれます。これにより、金融機関同士の資金のやり取りを円滑にし、経済全体の安定を支えています。
問4	答え 4 日本銀行が民間金融機関から国債などを買い取り、市場に出回る通貨量を増やすことで、景気の回復を促す。	景気が悪い（景気不振）とき、日本銀行は世の中にお金を流通させて経済を活性化させようとします。日本銀行が一般の銀行（民間金融機関）から国債を買い取ることで、その代金が民間銀行へと渡り、結果として市場全体の通貨量が増加します。これにより、企業や個人が銀行からお金を借りやすくなり、投資や消費が促進されます。税率の調整は政府が行う財政政策であり、また日本銀行券を発行できるのは日本銀行のみであるため、他の選択肢は誤りです。
問5	答え 3 預金通貨	紙幣（日本銀行券）や硬貨は、手渡しで使う「現金通貨」と呼ばれる。これに対し、銀行の普通預金や当座預金などは、クレジットカードの引き落としや振り込みなどを通じて支払いに利用できるため、「預金通貨」と呼ばれる。現代の経済社会では、現金通貨よりも預金通貨の方がはるかに大きな金額で取引されている。
問6	答え 2 銀行の銀行	日本銀行は、私たち個人や一般の企業とは直接取引を行わず、民間銀行などの金融機関との間で資金の貸し借りや決済を行うため「銀行の銀行」と呼ばれます。なお、国の税金などの出し入れを管理する役割は「政府の銀行」、紙幣（日本銀行券）を発行する役割は「発券銀行」と呼ばれ、これらが日本銀行の主要な3機能です。
問7	答え 1 企業が株式や債券を発行し、家計などの投資家から直接資金を調達する。	直接金融では、企業は株式や債券を市場に提供し、それを購入する投資家から資金を得ます。銀行からの融資（間接金融）とは異なり、企業と投資家が直接結びつく点が特徴です。選択肢のうち、銀行が預金を貸し付けるのは間接金融の説明であり、社内留保金を用いるのは内部留保（自己資金）による調達に該当します。
問8	答え 2 日本銀行が国債を買い、代金を支払うことで、市場の通貨供給量を増やして景気の回復を図る。	買いオペレーションは、日本銀行が公開市場操作の一環として、民間金融機関から国債などを買い入れる操作です。この対価として支払われた資金が民間銀行の資金供給源となり、結果として世の中の通貨量が増え、金利が低下することで企業の設備投資や個人の消費を促す仕組みになっています。
問9	答え 3 金融機関が資金の貸付先を決定し、貸し倒れなどの運用リスクも金融機関が負う仕組み。	間接金融では、預金者は資金を銀行に預けるだけで、どの企業に貸し出すかという判断には関与しません。そのため、銀行が自らの責任で貸付先を審査し、もし貸し出した資金が回収できなくなった場合でも、原則として銀行がそのリスクを負うことになります。これに対し、投資家が自己責任で投資先を選ぶ形態は直接金融と呼ばれます。
問10	答え 2 政府が公共投資を増やして仕事や需要を創出し、日本銀行が民間銀行から国債を買い取ることで市場の通貨量を増やす。	不景気のときは民間企業の活動や家庭の消費が落ち込むため、政府は公共事業を増やす財政政策によって直接的な需要を生み出し、景気の下支えを図ります。これに合わせ、中央銀行である日本銀行は民間銀行から国債を買い入れる「買いオペレーション」を行い、代金として現金を供給することで市場の通貨量を増やし、金利を下げて企業が資金を借りやすくする金融政策を実施します。
問11	答え 1 市場の通貨量を減らすことで金利を上昇させ、景気の行き過ぎを抑えるため。	好況時に日本銀行が国債を売ると、民間金融機関が手持ちの資金を支払いに充てるため、市場の通貨量が少なくなります。お金の供給が減ると資金調達が難しくなり、金利（利子率）が上昇します。これにより、企業や個人の借り入れが抑制され、消費や投資の勢いが落ち着くことで景気の過熱が抑えられます。
問12	答え 4 民間金融機関との間で当座預金のやり取りを行い、金融システム全体の資金の過不足を調整しているから。	日本銀行は中央銀行として、民間の銀行などが預け入れている当座預金を通じて、金融機関同士の資金の決済を仲介したり、不足している銀行へ資金を貸し出したりしています。このように「銀行にとっての銀行」として機能することで、経済全体の血液であるお金の流れを安定させています。民間銀行の経営権を所有したり、個人の預金口座を管理したりすることはありません。
問13	答え 2 日本銀行が民間金融機関から国債を買うことで、通貨量を増やす。	景気が停滞しているときは、世の中にお金が十分に循環するように、日本銀行が「買い手」となって市場に資金を供給します。民間金融機関から国債を買い入れるアクションは、銀行が保有する資産を現金化させることを意味し、これによって銀行は企業などへの融資を増やせるようになります。逆に景気が過熱しているときは、国債を売って通貨を回収する「売りオペレーション」が行われます。